

ワタケンだより

Do our best

夏号
2022年
No.65

特集 建設工事に従事する労働者に対する
安全衛生教育講習を実施

トピックス

建設もの創り大賞を受賞
地域貢献活動と防災訓練を実施
フルハーネス型安全帯取扱作業特別教育講習の実施
新入社員募集のお知らせ



リビングルーム



キッチン・ダイニング

平松中条モデルハウス／裾野市

先日、静岡県にとって久しぶりに明るいニュースが飛び込んできました。県の発表によると、二〇二一年度に行行政の支援制度を利用した県外から静岡県内への移住者が、八六八人を記録し過去最高になったとのことです。増加率も前年比で三三・六%アップとなっており、県や自治体に寄せられた移住相談件数も過去最高を更新したそうです。

その中でも、当社の主力エリアである東部エリアの移住者数は県全体の約三七%を占め、特に交通アクセスの良い三島市は一七一人と県内トップの移住者数です。

当社も住宅事業を営んでおりますが、ここ数年、首都圏を中心とした県外の方からの相談が増えています。その中には出身が静岡という方ばかりではなく、これまで静岡に縁がなかった方



代表取締役
渡辺 正高

移住者支援

の方からこの地に魅力を感じて頂いているかを実感します。

移住先として静岡が選ばれる要因にはいくつかあると考えられます。特に東部方面に関しては都心へのアクセスの良さ、そして温暖な気候などが挙げられます。ただ、地震を中心とした大規模災害のリスクのある静岡県内においては、「[TOUKAI-0]」など早い時期から木造住宅の耐震化の支援事業を行っており、我々建設業界も地震に強い建物づくりで長年貢献してきました。そうした業界の長年の実績の中で「静岡県の住宅は安全だ」というイメージへの貢献、ひいては移住者増加の遠因として寄与できたのではないかと自負しております。

全国的にみれば、東京圏への一極集中が進んでおり、地方への移住はまだまだ小さな動きにすぎません。そんな中で静岡への移住が増えることは地域にとって大きなチャンスです。当社も一建設業者として移住者支援、地域への貢献をしていく所存です。

作品 WORKS



S様邸／伊豆の国市



R様邸／裾野市

弊社が担当した「令和元年度桃沢野外活動センター他大規模改修工事（長泉町）」が、第三十八回（社）静岡県建設業協会建設もの創り大賞にて建築部門における優良賞と特別賞を受賞しました。

この賞は、数ある建設工事の中で、施工管理という面において優れた技術力があるとみなされたものに対して表彰されるもので、静岡県内の同加盟企業が担当した大規模工事の中からノミネートされた作品が対象となります。

今回の工事に対しても、当社の技術力、品質、工事期間中の安全面への配慮など、施工管理における様々な要素に関して特に優れていると判断されての表彰になりました。



建設もの創り大賞を受賞

【発行】渡辺建設株式会社

〒401-2255 裾野市富沢三九四-1

電話 〇五五九九二〇〇三〇(代)

【編集】ワタケンだより編集部

地域貢献活動と防災訓練を実施

五月二十一日（土）、毎年恒例の地域貢献活動と防災訓練を実施しました。

地域貢献活動として本社周辺の清掃活動を行い、昨年引き続き裾野市富沢・長泉町南一色の国道二四六号線沿線を中心に、社員約五〇名でゴミの回収等を行いました。

また、当日は昨年引き続き防災訓練を実施しました。防災備品のチェックや停電時における非常用電源への切り替えの対応、非常食の調理などをグループに別れて確認を行いました。



フルハーネス型安全帯取扱作業特別教育講習の実施



安全な工事現場実現の取り組みとして、フルハーネス型安全帯取扱作業の講習を実施しました。当日は当社社員及び安全推進協力会社員企業から約四十名の参加があり、学科による講習、実技講習を含めて約六時間にわたる研修を受けました。

学科ではDVDによる映像資料で関係する法令や基礎知識を学び、実技講習では実際にフルハーネス型安全帯を使用しながら正しい装着方法や安全帯フックの掛け方などを学びました。

高所での工事作業では、これからよりフルハーネス型安全帯の重要性が高まってきます。当社ではこれからも安全対策に全力で取り組んでいきます。

社員募集のお知らせ

現在、渡辺建設では正社員を募集しております。詳しい勤務内容、就業条件等はお気軽にお問い合わせください。皆様のご応募をお待ちしております。

【技術職（建築施工監理業務）】

- ・二〇二三年春卒業予定で高校、専門、大学等で建築土木系学科で学んでいる方
- ・二〇代〜三〇代で、建設業での就業経験がある方

問い合わせ先

総務部・鈴木まで

〇五五九九二〇〇三〇

安心して
長く働ける
職場です！



建設工事に従事する労働者に対する安全衛生教育講習を実施

令和四年四月二十日、弊社社会議室に於いて建設工事に従事する労働者に対する安全衛生教育講習が実施された。参加対象者は現在、弊社が請け負っている土木工事現場の三作業所に従事している元請負スタッフ及び下請負業者様の作業員となり、参加人数は合わせて総勢二十五名の労働者が受講した。

当日は建設業労働災害防止協会静岡支部講師による安全衛生教育について細部に渡り説明を受けた。講習時間は午前と午後の六時間におよぶスケジュールとなった。

午前の部では弊社社会議室にて学科講習が行われた。教育テーマは「事業者の責任と労働者の遵守業務」「安全施工サイクルの実施方

法」「現場の労働安全衛生に関する具体的実施事項」「有害物、有害作業、有害場所等の健康障害防止」の大きく分けて四つのテーマについて、詳しい説明を受けた。受講者はそれぞれが担当する作業所でのケースに置き換えるなど、内容についてメモを書きとめていた。受講者は真剣な表情で講習に望んでいた。その後、「労働災害の事例及びその対策」について複数の事例を基に個々のリスクアセスメント方法と対策についても交えながら説明を受けた。事例は「車両系建設機械等の災害」「墜落・転落の災害」「倒壊・崩壊の災害」「飛来・落下の災害」の大きく分けて四つの項目があげられた。

一つずつ事例写真ごとに良い例と悪い例の二パターンを見比べ、どんな所に労働災害が起こり得る可能性が潜んでいるのか、又、労働災害を防ぐには何をすべきなのか、図解を基に分かりやすい説明を受けた。現場で起こり得る労働災害事例に受講者はしっかりと耳を傾けていた。

午後の部では弊社が施工を請け負っている一級河川大場川災害復旧工事の作業所へ移動し、現場でできる実技体験訓練を受けた。実際行われた実技体験では「服装及び保護具の適切な装着方法」「適切な安全指示の方法と対応」「怪我などに対する救護の方法と対応」について講師の指示の下、受講者全員が実技体験を

行った。体験をした受講者は「服装及び保護具の適切な装着方法の内容は基本的なことではあるが、まず安全に作業を行うには自身の身なりをしっかりと整えることが重要だということを実感できた」と様々な体験を通して感想を述べた。

今回、弊社が請け負っている土木工事現場の三作業所に従事している元請負スタッフ及び下請負業者様の作業員が合同で安全衛生教育を受講することによって土木部全体でより高い安全意識を持つことができる。又、講習で得た知識及び情報を各々が従事する作業所に持ち帰り、今後に生かすことにより、さらに安全に配慮された現場作業が行える。

弊社では定期的に安全に対する意識をより高めるため、このような取り組みを今後も続けていく考えである。

安全帯がフルハーネス化に！特徴とメリットとは？

二〇一九年から安全帯は、墜落制止用器具という名称になり、フルハーネス型を着用することが原則となった。フルハーネス型にはどんな特徴やメリットがあるのでしょうか。フルハーネス型に移行した背景と、特徴・メリットなどをご紹介します。

フルハーネス型 安全帯の特徴

フルハーネス型安全帯は、ベルトを肩や太ももなど体の複数部に装着するタイプとなっている。

肩ベルト、胴ベルト、胸ベルト、腿ベルト、骨盤ベルト、

着脱式連結ベルト、D環、フック、シヨックアブソーバ等のパーツから構成される。この複数のベルトによって、万が一の墜落時でも体が安全帯から抜け出す可能性が低くなっている。

フルハーネス型は胴ベルト型と違い、落下時の衝撃を全身に分散させることができる。土木、建設、橋梁などさまざまな現場で使用される。また、フルハーネス型

胴ベルト型安全帯
胴ベルトだけで支持されている。落下時の衝撃が大きい。

フルハーネス型安全帯
複数のベルトで支持されている。落下時の衝撃が吸収される。

は胴ベルト型と比較すると、墜落制止時にはほぼ直立した姿勢になるため、胸部の痛みや息苦しさが少ない状態で救助を待つことが可能となる。

フルハーネス型安全帯のメリットと変更の背景

法の改正前まで建設業で多く使われていた胴ベルト型安全帯の場合、万が一の墜落時に体が抜けるリスクがある。また急に腹部や胸部を圧迫することにより死亡する例もある。さらに墜落制止時に体が「くの字」になるため、D環が腰より下になる危険性もある。逆さまになる危険性もある。逆さまな姿勢の状態が長く続くと、呼吸困難やしびれなどの症状が出てくる。また地面との距離が近い場合、頭から落下する危険性もある。このような事故や死亡例が多いことから安全帯の見直しが行われ、原則としてフルハーネス型の着用が義務付けられた。フルハーネス型は肩や腿にもベルトを装着しているため、このような危険がない。またシヨックアブソーバを付け

るとさらに安全になる。シヨックアブソーバは、墜落制止時に衝撃を大幅に低減する。体への衝撃を減らすほか、ランヤードの切断リスクを下げることでできる。

以上の点をふまえ胴ベルト型に比べフルハーネス型は優れており、多くのメリットがある。

フルハーネス型安全帯のメリットは多いが、いくらフルハーネス型が安全と言っても正しい使用方法を知らなければ意味がないので装着の仕方やフックの取り付け方法など普段からしっかりと訓練する必要がある。

フルハーネス型 安全帯についての疑問点Q&A

Q1 どのような場合にフルハーネス型が必要なのですか？

A1 高さ2m以上の作業床等のない高所作業ではフルハーネス型を着用することが原則となりますが、ガイドラインによると一般的な建設作業では5m以上そ

他の作業では6・75m以上を超える作業ではフルハーネス型の着用をすることになっている。

Q2 高さが5m未満の作業床が設けられない作業場所ではどうすればよいですか？

A2 原則としてフルハーネス型ですが、フルハーネス型の着用者が地面に到達する恐れのある場合は胴ベルト型を着用することができます。

Q3 フルハーネス型安全帯の耐用期間はどのくらいですか？

A3 メーカーが出している耐用期間はロープ部分で

2年、その他の部分で3年です。耐用期間内であっても廃棄基準に達している場合は使用できない。

安全帯の正しい使い方 チェックポイント

- 安全帯を使用する前に、各部に異常がないか目視による点検をする。
- 安全帯のフックは、腰よりも上の位置にかける。
- 安全帯取り付け設備は、墜落時の衝撃に十分耐えうる堅固なものとする。
- 材料等の鋭角部にロープが直接当たらないようにする。
- 一度でも大きな衝撃を受けたら、外観に異常がなくても使用しない。
- 墜落制止時、フックに曲げの力がかからないように、フックの主軸と墜落時にかかる力の方向が一致するように取り付ける。

建設部主任
鈴木隆哉